

学生同士の教えあいを生み出す CUBE 西宮の学びの場

— 独創的な授業を提供する甲南大学の取り組み —

甲南大学マネジメント創造学部
井上 明

[Abstract]

2009 年 4 月に開学した甲南大学マネジメント創造学部(愛称 CUBE)では、「自ら学び、共に学ぶ力」「自ら考え行動する力」を養うことを学部の目標としています。この目標を実現するために、PBL を学部カリキュラムの中心に据え、学生同士、および教員と学生との学びの場をより効果的に実現するための校舎、教室、ICT 環境を構築しました。

今回、CUBE の教育を支援する下記のシステムを活用した学びの形を紹介します。

学部専用 SNS での学びのコミュニティ、学びのツールとしての PC 利用(ネットブック必携)、Felica ケータイ、IC カードによる個人認証一元化、プロジェクト型学習に適した少人数教室、AWK(教室のどこにいても AV 機器制御)、Wivia(無線プロジェクターによるグループワーク支援)、学内ポータル、グループワークも可能な PC 教室

また、これらの環境を活用した教育実践を通じて得られた、教育的効果、可能性、そして課題について報告します。

[Keyword]

PBL、ケータイ、ポータル、IC カード、グループワーク

はじめに

甲南大学は、2009 年 4 月にマネジメント創造学部(愛称 CUBE : 以下 CUBE) を新設した。CUBE は、経済・経営をテーマに、「自ら学び、共に学ぶ力」、「自ら考え行動する力」を強化し、実際に自分たちで問題を解決していく「やり抜く力」を持った人材の育成を目的としている。

CUBE では PBL がカリキュラムの中心である。PBL では、少人数グループ学習、学生同士の学び合い、自己学習、などが学びの活動となる。今回、CUBE の PBL を効果的に支援する以下の ICT システムを構築した。

1. CUBE SNS

学部専用 SNS は、CUBE の学生、教職員が全員参加する SNS である。推薦入学者は 2008 年 12 月より利用を開始し、一般入学者は 2009 年 2 月末より SNS へ参加している。SNS を学びのコミュニティとして活用している。SNS 上では、「CUBE の制服をフェアトレードで作りたい」といった要望を学生自らが提案するなど、学びにかかわる積極的な活動が生まれた。ただ、SNS の利用は、入学後 2 カ月を経過すると、大幅に減少した。これは、現実社会でのコミュニケーションが活発になり、仮想空間での情報交換の必要性が低下したことによるものと推測される。

2. Wivia (無線プロジェクターシステム)

PBL で行うグループ活動では、自らの意見を述べ、他者と議論しながら学びの活動を進める。CUBE では、学生はネットブックを必携しており、グループでの議論などにパソコンを利用している。ただ、議論を進める際、ノートパソコンの画面をプロジェクターなどへ投影する場合、ケーブルの切り替えに時間がかかり、議論が中断される場合が多々ある。そこで、ワイヤレスで学生ノートパソコンの画面を、プロジェクター等へ投影できるシステムを導入した。本システムを導入することで、議論を寸断することなく、コミュニケーションを図れるようになった。

3. グループワーク教室

CUBE では、PBL の特徴である少人数グループ学習を徹底するために、大講義室での授業を廃止した。教室は全て 50 名程度までの少人数教室である。ほとんどの教室では、机・椅子はグループワークを行う

に適した移動式である。また、教室の壁はガラス張りとなっており、授業の様子が外から見るができる。このように、自分たちの学びの様子が常に見られているという緊張感を持たせている。

4. AWK(ワイヤレス AV 機器制御)

大教室での講義形式授業では、教員は教卓前でほとんど移動することなく授業を進める。しかし PBL では、教員はファシリテータとして、学生の様子を観察し、適切な助言を行うために、常に教室内を移動する。そこで、教室のどこにいても AV 制御が可能なシステムを導入した。プロジェクターへの映像ソースの切り替え、マイクの音量調節、照明のオン・オフ、などの AV 機器を、手元のモバイル端末で操作可能である。これにより、教員が AV 機器の切り替えなどで移動することがなくなり、より学生の指導に集中できる環境が実現できた。

5. 学内ポータル

学生への授業の連絡、資料、課題、掲示板、出欠管理、小テスト、アンケートなどを学内ポータルを利用して行っている。学内ポータルを使うことで、学習に関する全ての情報を一元管理、共有化している。

6. Felica ケータイ、IC カードを利用した統合 ID 管理

学内の ID 管理を全て統一し、どのようなシステムを利用しても一つの ID、パスワードで利用可能としている。また、その認証デバイスとして、Felica ケータイ、または IC 学生証を採用した。学生は入学時、Felica ケータイまたは IC 学生証のどちらかを、個人の認証デバイスとして登録する。登録後、PC 教室パソコンへのログイン、オンデマンド印刷、入室管理、IC ロッカー、などが Felica ケータイまたは IC 学生証を IC リーダにかざすだけで、利用できるようになる。これにより、学内の様々な IT 機器をシームレスに利用することができ、学内全体をひとつの学びの場所として意識させるようにしている。

おわりに

以上の ICT システム以外にも、英語のみを話すフロアである"English Only-Zone"や、校舎内の吹き抜けを利用した 300 インチ投影可能なプロジェクターなど、校舎内全てが学びの空間となるような工夫も実現した。

今後はこれらの ICT システムを利用し学習活動を行うことでの学習効果の定量的測定や、学生からの新しいアイデアの創出などを検証していきたい。